

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 19年 10月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	2874001403		
法人名	社会福祉法人 やながせ福祉会		
事業所名	姫路・勝原ホーム認知症対応型共同生活介護		
所在地	姫路市勝原区下太田573 (電話) 079-273-1311		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通 2-1-18		
訪問調査日	平成19年8月31日	評価確定日	平成19年10月23日

【情報提供票より】(19年 8月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 3人, 非常勤 8人, 常勤換算	9.25

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3 階建ての	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,700 円	その他の経費(月額)	22,500 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780 円	

(4) 利用者の概要(8月 15日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護 1	2 名	要介護 2	3 名		
要介護 3	3 名	要介護 4	1 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	太子病院
---------	------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

最寄りのJRの駅から車で約5分、住宅街ではあるが、周囲には山や川、田畑があり、自然が身近に感じられる場所に位置している。同一敷地内には、保育園、特別養護老人ホーム、通所介護、短期入所生活介護の施設があり、防災避難訓練や行事とともになど相互交流が行われている。「ゆっくり」「楽しく」「一緒に」の理念から、夜間入浴を取り入れ、午後の時間はゆとりをもって、外出や会話を楽しめるようにしている。また、一人ひとりを尊重したケア実践のため、接遇研修にも力を入れている。法人としてのボランティアの受け入れだけでなく、今後はホームとしても、利用者の日々の暮らしがより豊かになるよう、地域の方々や、保育園児と日常的な交流が図れるよう、積極的な取り組みが期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	課題とされた共用空間の広さや整然とした美しさから感じられる緊張感を和らげるよう、利用者の作品ちぎり絵・習字や、行事の写真を掲示したり、生け花・植木等植物や食器棚を配置する等工夫している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	前回の第三者評価の結果について、パート職員も含め目を通し、改善に向け実行した。今回は常勤職員を中心に自己評価を行い、要改善項目については、評価の意義を説明し、改善に向け取り組んでいる。今後は改善計画を策定するなど職員間でより計画的に取り組むことが期待される。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	6月に第1回を行い、次回は10月に予定している。ホームが法人の特養等と同じ敷地内にあるのを知らなかったという発言が会議の中であり、地域代表の委員の提案を受け、11月に行われる地域の文化祭で、利用者の作品を展示してもらうことになった。広報誌の発行、ボランティアの受け入れ等を積極的に行っているのので、今後は地域住民への周知への取り組みや、ホームの内外の意見を取り入れ、地域の認知症ケアの核となることが期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	ホーム独自の家族会はないが法人としてのものはある。しかし、その会議での家族の発言は少ない。訪問時や電話連絡の際、積極的に家族の意見を聞くようにしているが、個別では言いにくい・尋ねにくいこともある可能性があるの、家族だけで自由に話し合え、意見をまとめることができるよう、ホーム独自の家族会があればよいのではないかと。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
	保育園や地域の行事に招待されたり、日常的に同法人の通所介護、短期入所生活介護、特養の利用者との交流も行われている。イベント的な交流や、施設内での交流だけでなく、もう一歩進めて、日々の生活の中で、地域住民と触れ合えるよう、積極的な取り組みが期待される。また、保育園児やその保護者等との日常的な交流もできればよいのではないかと。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「利用者一人ひとりのニーズと意志を尊重し、できるかぎりの生活の質の向上をはかる」をもとにして「ゆっくり」「楽しく」「一緒に」をモットーにしている。		介護保険法の改正により、グループホームが地域密着型サービスになったことで、その目的を加味しながら再検討していくことが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全員ミーティングで、2ヶ月に1回新たな目標をたて、実践に向け取り組んでいる。利用者のペースで支援することの大切さを職員皆が理解し、実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会・老人会等には加入していないが、同一法人内の通所介護・短期入所生活介護の利用者とは日常的に交流がある。その他、地域の行事に招かれ参加したり、小中高生との交流もある。法人としてボランティアの受け入れも活発になされている。		地域で暮らす住民として、近隣との交流は十分とはいえない。イベント時の交流だけでなく、暮らしの中で会話ができるような取り組みが期待される。また、同一敷地内に保育園があることを生かし、日常的に園児と触れ合える機会を設けてみてはどうか。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の第三者評価の結果について、パート職員も含め目を通し、改善に向け実行した。今回は常勤職員を中心に自己評価を行い、要改善項目については、評価の意義を説明し、改善に向け取り組んでいる。		さらに改善計画表を作成し、目標・期間・方法等について職員全員で共有し取り組むことが望まれる。また、取り組んだことに対する、評価も行い、次の実践に繋ぐことができればなおよいのではないかと。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	6月に第1回を開催した。各委員には、会議に参加するにあたっての思いを自由に述べてもらった。単独型ではなく、法人の施設内にあるため、ホームの存在を知らなかった委員もあり、まずは地域の文化祭に利用者の作品を展示し、ホームを知ってもらうことから取り組むことになった。		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	運営推進会議には、同一法人が受託している地域包括支援センターの職員が参加しているが、市からの参加もなく、また、地域密着型サービスに関する情報提供等もなく、連携が充分とは言い難い。		同一法人の特別養護老人ホームでは、市の職員研修を受託しているため、ホーム独自でも職員研修等を引き受ける等、ホームの実践内容を知ってもらい、市の認知症ケアの向上に共に取り組んでもらえるよう、積極的な働きかけが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	同一法人の介護保険事業所と共同で発行している「ホーム便り」を月1回発送し、日頃の暮らしぶりを伝えるとともに、預かり金の収支の報告を行っている。利用者自身が家族宛に近況を知らせるはがきを出すことも支援している。健康状態については、家族の訪問時や電話で詳細に伝えている。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	特別養護老人ホームと合同の家族会を年1回開催しているが、ほとんど意見は出されない。家族訪問時にはさりげなく意見を聞くようにしている。		グループホームの運営方針等について、知りたいことや疑問に思うことを、家族同士で意見をまとめ、抵抗なくホームに尋ねることができるよう、グループホーム独自での家族会開催等集まる機会を持てるよう支援が望まれる。
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の異動時、利用者には説明をしているが、家族には特別に知らせてはいない。離職があった場合、新しい職員には10日間ほど日勤をしてもらい、2日間先輩職員と夜勤を経験してから、一人で夜勤をしてもらった。		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修にも積極的に参加し、復命書を回覧し参加できなかった職員にも学んでもらっている。パート職員にも時間内に研修受講の機会を設けている。</p>		<p>職員には、積極的に認知症ケアに関する研修を受講させ、新しく得た知識をうまく実践にとりいれていくためのしくみ作りが望まれる。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>姫路市介護サービス第三者評価機構主催の研修会に参加し、同業者との交流やホームを相互訪問することで、日頃の仕事の悩みを解消したり、サービスの質の向上のための気づきや学びを得るようにしている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前の面接は、自宅や病院に出向いて行うとともに、見学にも来てもらうようにしている。今のところ、在宅からよりも、病院や施設からの入居が多く、通所介護や短期入所生活介護を利用しながら馴染んでもらったことはないが、変化による負担を軽減するため、入居時に家族に泊まってもらったこともある。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の生活歴や特技を知り、生活の場面で料理や包丁研ぎ等の得意なことをしてもらっただけでなく、常識や漢字を尋ねるなど、教えてもらう関係を築くよう取り組んでいる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者との話し合いや日常会話の中から、嗜好品、想い、嫌なこと、希望等を聞き、意向に添えるようにしている。意向が伝えられない利用者の場合は、家族に尋ねたり、生活歴を参考にして支援している。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当者を中心に、月1回サービス担当者会議を開き、必要な事柄を出し合い、優先順位を決め、支援にあたっている。家族には介護計画作成後に説明・同意を得ている。</p>		<p>家族からの聞き取りや、会話の中等で各職員が得た利用者の思いや生活歴に関する情報の記録を総合的に集約し、より豊かな暮らしを支援できるような計画作りが望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、おおむね6ヶ月程度で書き換えられている。変化が生じた場合は、日々のミーティングで話し合い、臨機応変に必要な関係者と話し合い、見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>ホームとしては介護保険制度上の通所介護事業等は実施していない。家族の要望があれば、姫路・太子町までの通院付き添いは行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望する医療が受けられるよう、ホーム嘱託医と利用者のかかりつけ医が連携し、支援している。通院可能な時はかかりつけ医を受診し、状態が悪くなってからは、かかりつけ医と連絡を取り嘱託医が診た例もある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	折りに触れ、重度化した場合の説明はしている。ホームで終末を迎えたいという話はない。全介助で24時間見守りが必要な場合、特養入所をと説明している。空きがない場合、かかりつけ医の協力を得て、ホームで支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人内で接遇委員会を設け、一人ひとりを尊重した言葉かけや対応を学び、実践している。広報誌については、掲載拒否を表明している場合は掲載していないが、すべての利用者に対して、掲載の同意をとってはいない。		個人情報の取り扱いについては、職員間で学習を重ね、プライバシー保護について徹底することが 望まれる 。家族に対しても、プライバシーについて異議申し立てや、相談ができることを説明しておくとのよいのではないか。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の予定はあるが、起床や就寝、食事、入浴の時間等、本人の体調や一人ひとりのペースに合わせている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯は毎日炊飯し、火・木・土の昼食夕食はホームで調理して、利用者と職員と一緒に、準備と後片付けを行っている。食卓の高さは、個々の体格に合わせ、食べやすいよう配慮がなされていた。		食事を楽しむ雰囲気を大事にするためにも、食べ終えてもすぐに席を立たずに、職員も話をしながらしばらく待ったほうがよいのではないが。また、移動手段として車イスを使用している人が、車イスに座ったまま食事をしているので、食卓の椅子へ移って食事をとることが望まれる。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後の時間をゆとりをもって過ごせるよう、また熟睡できるよう、基本的には夕食後に入浴時間を設定している。しかし、朝の方が入りやすい人には、朝の時間に入ってもらっている。夏場はシャワー浴だけですませる人もあり、個々の希望に合わせている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	週1回ボランティアによる特養と合同の音楽交流会でリーダーとしてマイクを持ってもらう。包丁研ぎ、調理、後片付け等有する能力に応じて、役割や楽しみを持ってもらえるよう支援している。		さらに、保育園児との日々の触れ合いの中で、利用者が何らかの役割を果たせるような取り組みが期待される。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月曜日の買物、金曜日の喫茶外出の他、川沿いの道の散歩、法人の散策公園での食事等、日常的に外出できるよう配慮している。		人との関わりが、法人内で完結することが多いので、さらに地域住民と日常的に気軽に声を掛け合える関わりができるような取組が期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは3階にあり、階下に降りるにはエレベーターを使用する。降りたところは保育園の運動場に面し、安全上運動場の門には鍵がかけられ、自由に外に出られる構造にはなっていない。		法人内の施設には自由に行くことができるが、さらに利用者の外に出たい気分を察知し、積極的な外出支援が期待される。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>月1回の避難訓練、年2回の消防署立ち会いのもとでの避難訓練を法人と合同で実施している。地元の消防団も協力してくれている。</p>		<p>いざというとき、すぐに支援の得られやすいのはホーム近隣の方であるため、協力を得られるよう働きかけることが期待される。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者に食事や水分摂取の大切さを説明するとともに、各人のおおよその摂取量は記録している。また管理が必要な人については、毎食記録し、必要な量が確保できるようにしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>廊下の広いスペースの壁には、利用者の習字やちぎり絵、行事の写真を飾り、コーナーには生け花や植木鉢、クッションやぬいぐるみを置いたソファ、椅子を置き、生活感や季節感を演出している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベッド、作り付けのクローゼット、洗面台は各部屋共通だが、個々にタンス等家具を持ち込み、家族の写真を飾り、ベッドの位置も様々で、各人が居心地よく過ごせるようにしている。</p>		

 は、重点項目。